

世界に広がる DAAD ドイツ・ヨーロッパ研究センター

(渡部聡子 訳)

ドイツ学術交流会 (DAAD) はドイツ連邦共和国外務省などから助成を受け、世界12か国の大学に設置されている計20に及ぶドイツ・ヨーロッパ研究センターを支援しています (2020年5月現在)。その学際的なセンターは、ドイツとヨーロッパの専門家を育成するとともに、ドイツとヨーロッパに関連する学問、政治、社会を結び付けています。

沿革

1990年、当時の連邦政府の主導のもと、独米関係の構築、とりわけ、学問的な連携を強化する目的で、米国のカリフォルニア大学バークレー校、ハーバード大学、ジョージタウン大学に、横断的研究拠点として最初の3センターが設立されました。1990年代半ばには、英国のバーミンガム大学でドイツ研究センターがヨーロッパ初のセンターとして開設され、1990年代末には、米国の東部、中東部とカナダにも多くのセンターが続きました。2000年、東京大学にセンターが開設されたことで、大陸を超えた次なる一步が実現しました。

2001年にはフランスで全国的なネットワークを組織する学際的ドイツ研究センターと、アムステルダムドイツ研究センター (オランダ) が加わりました。その翌年には、当時のゲルハルト・シュレーダー連邦首相の主導のもと、ポーランドのヴロツワフにヴィリー・ブランド・センターが設置されました。ロシアではサンクト・ペテルブルク国立大学、中国では北京大学で、個別の二国間大学協力が、ドイツのプロジェクトパートナーとの学際的センターへと発展しました。翌年には、イスラエルのエルサレム・ヘブライ大学とハイファ大学で2つのセンターが設立されました。さらに韓国の中央大学校 (ソウル) にもセンターが開

設されました。

2016年には、ケンブリッジ大学 (英国) の研究センターに、ドイツ研究の拠点となるネットワークが新設されました。2017年に開設された最も新しいセンターは、ブラジルのボルト・アレグレにあるリオグランデ・ド・スル連邦大学 (UFRGS) と、リオグランデ・ド・スル・ポンティフシア・カトリック大学 (PUCRS) の協力プロジェクトにより実現しました。このプログラムの重要な原理は、DAADからの補助金に加え、ホスト大学も共同で資金を提供するという「マッチング・ファンド」の原則です。

目的

ドイツ・ヨーロッパ研究センターの主要な目的の一つに、ドイツとヨーロッパに関する優れた洞察力を備え、学問的、社会的な議論に世界各地で貢献できる新しい世代の専門家を育成することがあります。従って、各センターで修士課程、博士課程の学生にそれぞれ提供されるプログラムを通じた教育が、重要な役割を担っています。

もう一つの重要な使命は広報・助言活動です。センターは、ドイツとヨーロッパについて、研究・教育の領域だけではなく、政府などの公的セクターに対する政策諮問活動においても、積極的に助言を行い、センターが立地する地域を照らし出す灯台としての機能を担うことが期待されます。

主要なテーマは戦後と現代ドイツ、欧州統合です。無論、語学支援プログラムを通じたドイツ語の促進も目的の一つです。センター相互のネットワーク、センターとドイツの研究・教育機関とのネットワークを強化し、さらなる超域的な協力関係の構築を目指しています。

参照: DAAD ホームページ (<https://www.daad.de/de>)

ハイファ大学ドイツ・ヨーロッパ研究 ハイファセンター(HCGES)

(渡部聡子 訳)

ドイツ・ヨーロッパ研究ハイファセンター (HCGES) は、ハイファ大学とドイツ学術交流会 (DAAD) の共同プロジェクトです。2007年に設立された HCGES は、学生、研究者、社会に向けてドイツとヨーロッパの現代像を伝えることを使命としてきました。この目的を達成するため、センターは、ドイツに関わる教育と研究プロジェクトを集中的に支援しています。

HCGES は、1945年以降のドイツとヨーロッパにおける社会、法律、経済、文化の展開に重点を置いています。2020年には歴史家のシュテファン・イーリヒ教授がセンター長に就任しました。HCGES はハイファ大学の研究機関の一翼を担う学際的なセンターであり、人間学部、社会学部、法学部と連携しています。また、ハイファ大学のその他の学部や研究所で行われる、現代ドイツと関係のある重要な活動についても支援しています。

教育活動

HCGES は、21世紀のドイツと関係する教育活動を展開しています。上述の学部で開講される授業のテーマは多様、かつ広範にわたり、ドイツ民法典や現代ドイツ文学、スポーツや政治を扱うものもあります。2009年10月、センターはドイツ・ヨーロッパ研究修士号のためのプログラムを開始しました。この修士課程の授業は、履修生のドイツとヨーロッパに関する学識を深めるという目的のもと、英語で開講されます。当該プログラムは経済学、法学、政治学、地理学、環境学、社会学、歴史学、文学、ドイツ語教

育など、きわめて多様な研究分野を組み込む学際性を重視した教育計画を提供します。さらに、国際的に著名な客員講師によるセミナーが毎週、開催されます。また、年に一度の研修旅行も圧巻です。2017年からは、このプログラムに加え、国際的な博士課程プログラムも提供しています。

研究活動

HCGES は、ドイツ・ヨーロッパ研究の多様なテーマ領域にわたる研究支援を使命としています。センターは、現代ドイツとヨーロッパの分野で研究プロジェクトに取り組むすべての課程（修士・博士）に所属する学生に奨学金を交付しています。これまでに奨学金の対象となった研究活動として、移民と統合の分野、ドイツの教育政策、「想起の文化」や反ユダヤ主義をテーマとする研究があります。

センターの目的は、現代ドイツ・ヨーロッパをテーマとする革新的で独創的な研究を進展させ、当該分野の若手研究者を育成するところにあります。

公開イベントの開催

HCGES は、社会に広く開かれた公開イベントを企画してきました。これまでのイベントは討論会の形態で行われ、主なテーマとして、ドイツのアイデンティティーと愛国心、多文化主義、68年世代の影響、ベルリンの壁崩壊後の展開を扱ってきました。

参照：HCGES ホームページ (<http://hcg.es.haifa.ac.il/index.php/de/>)